

2025 年度 入学試験問題

教育学研究科

学校教育専攻（修士課程）

「小論文」

（1 期）

受験番号	氏 名

文教大学大学院

下記の問題について、1,000 字以内で論じなさい。ただし、文章は横書きとし、段落を適宜に設け、常体で書きなさい。

【問題】

以下に示すのは教育学者の渡部信一の文章である。筆者の主張を踏まえれば、どのような「学び」が大切となると思われるか、あなたの考えを述べなさい。

「学び」と「賢さ」は表裏一体であるが、次のふたつのロボットのうち、あなただったらどちらのロボットが「賢い」と考えるだろうか？

ロボット1：微分積分の複雑な計算問題を、あっという間に解いてしまうロボット

ロボット2：100 円持って近所の駄菓子屋に行き、お菓子を買ってくるようなロボット

—中略—「微分積分の複雑な計算問題を、あっという間に解いてしまうロボット」だったら、「100 円持って近所の駄菓子屋に行き、お菓子を買ってくる」ことはいとも容易に行い得るだろうと思い込んでいたのが間違いだったのである。実際に、「100 円持って近所の駄菓子屋に行き、お菓子を買ってくるようなロボット」を作るとき「ロボットにさせたいことをひとつひとつ系統的にプログラムする」という従来の方法を用いたのでは完成させることが不可能だったのである。

例えば、「駄菓子屋に入る」ということをひとつとっても、扉がいつもは閉まっているがその日はたまたま暑くて開いていたとか、いつもはすぐに出てくる店のおばちゃんがたまたまトイレに入っていてなかなか出てこなかったとか、店の中にはすでに近所の悪ガキどもがいてよけいなチョッカイを出してくるとか、「100 円持って近所の駄菓子屋に行き、80 円のお菓子を買ってくる」という命令にもかかわらず、店屋のおばちゃんがお菓子を 70 円にまけてくれたとか、クジがふたつしか残ってなくて景品が一等賞と六等賞のふたつしかないので「やった！必ず一等賞が当たる」と思ってふたつともひいてみたら何とふたつとも六等賞だったりとか(私の幼いとき、しばしばこんなことがあった)……とにかく何が起こるか予想がつかない。どんなにがんばって考えうるケースに対して一対一対応的にプログラムを組んでいったところで、予想できない事態というのは日常生活の中にはあふれている。つまり、日常生活はあいまいで複雑なのである。

もう、おわかりだろう。「微分積分の複雑な計算問題を、あっという間に解いてしまうロボット」よりも「100 円持って近所の駄菓子屋に行き、お菓子を買ってくるロボット」のほうがずっとずっと賢いのである。つまり、ひとつひとつ系統的に知識を積み重ねていくというやり方が「賢さ」を作り出す「学び」であるという保証はどこにもないのである。

(渡部信一(2005)：『ロボット化する子どもたちー学びの認知科学』、大修館書店より抜粋し、一部改変した。)